NPOふるさと東京を考える実行委員会
25年間の活動紹介



次世代の子供たちのために東京湾を再生
「ふるさと東京を考える実行委員会」の活動経過

1977年　関口雄三（現理事長）が次世代の子供たちのため「東京湾再生」を決断
（東京湾再生に協力する地元政治家を支援）
1989年　葛西海浜公園「西なぎさ」「東なぎさ」が造られる
2001年　「ふるさと東京を考える実行委員会」を設立
「ふるさと東京を考える環境フォーラム」を開催
「東京湾をきれいにする10万人署名」活動開始
（2026年8月末10万人達成、10月、東京都に提出予定）
2003年　「東京湾NPO・市民ネットワークフォーラム」を開催
（56団体参加、関口雄三が発起難代表）
2006年　「東京湾をきれいにする署名」2万人分を東京都知事特別秘書に提出
2007年　「マリンガーデニングによる新左近川部分浄化実験」に成功
東なぎさに自生する浅草海苔発見（ DNA鑑定済）
2008年　「東京湾海水浴場復活プロジェクト」を発表
（地元葛西の海に海水浴を取り戻す決意を示す）
2009年　「海水浴場復活シンポジウム」を開催
（葛西の海に海水浴を取り戻すムーブメントを創出するため）
「第1回こども海の絵画等コンクール」実施
（こどもたちに海に対する関心を高めてもらうことが目的）
「葛西海浜公園西なぎさ水質浄化実験」を開始
2010年　「里海まつり（夏・冬）」開始
葛西海浜公園（西なぎさ）で、海苔・わかめの養殖開始
（海苔文化の復活と水質浄化対策＆地球温暖化対策）
本はまぐり稚貝放流開始（二枚貝による水質浄化）
2011年　葛西海浜公園西なぎさに水質浄化施設（竹ひび）を設置
（竹に付着するカキによる水質浄化）
「第2回葛西海浜公園絵画等コンクール」実施
2012年　「里海まつり夏」において「海水浴」を2日間実施
（約50年ぶりの海水浴復活）
東京都が、葛西海浜公園における「遊泳禁止」の看板を
「許可なき遊泳は禁止する」に変更
2013年　夏休み期間中に、「海水浴」を13日間（土・日）実施
2014年　夏休み期間中に20日間の「“海水浴”社会実験」開始（～2015年）
「第3回葛西海浜公園西なぎさ絵画等コンクール」実施
2016年　東京都と事業連携をし、33日間の「海水浴」を実施

2016年　里海里山連携プロジェクト（竹ひび1人1本活動）開始
（里山で邪魔者扱いされている竹を使って水質浄化）
2017年　葛西海浜公園西なぎさ「ビーチクリーン」開始
（子供たちが裸足で遊べる海辺づくりを目指して）
「第4回葛西海浜公園西なぎさ絵画等コンクール」実施
2018年　「海水浴」の期間を夏休み全期間（43日間）に拡大
「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案」を
東京湾再生推進会議に提出
2018年　葛西海浜公園東なぎさで自生する浅草海苔を培養し、養殖を開始
（DNA鑑定済み）
「豊かで美しい東京湾を取り戻すシンポジウム」を開催
（50年後を目指して東京湾から発信する）
「ふるさと東京再生」を幻冬舎から出版
（東京湾再生センター設立の必要性を提案）
2020年　NPO漁師宣言（一次産業の復活が東京湾再生のカギとなる）
二枚貝生息量調査開始（カモによる二枚貝の食害実態把握）
2022年　被覆網による二枚貝増殖実験開始
（二枚貝による水質浄化を目指して）
2023年　カキ天然採苗および養殖実験開始
（二枚貝による水質浄化を目指して）
定期的な魚類調査開始（NPO漁師実現のための基礎調査）
国立科学博物館「和食展」で当会が養殖した浅草海苔を展示
2024年　海苔の佃煮1,000本を江戸川区の小学校に寄付することを開始
（今年で3年目　子供たちに地元の海を好きになってもらうため）
葛西海浜公園事務所1階で葛西の海の生き物展示を開始
（里海水族園・・・葛西の海の生物多様性を体験するため）

2026年10月24日　葛西区民館大ホール

次世代の子供たちのために
東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラム
－ふるさと東京を考える実行委員会25周年記念－

ムーブメントの創出

東京湾再生を目指したフォーラム・シンポジウムの開催（2001年～）

２００１年「ふるさと東京を考える環境フォーラム」
東京オペラシティホールにて１５００人の来場者を迎えて開催


オペラシティホール


水中写真家・中村征夫氏との対談


唱歌を歌うコンサート

２００３年「東京湾NPO・市民ネットワークフォーラム」
日本科学未来館で東京湾に関する５６団体が集まり開催



発起人代表・笹口雄三あいさつ


パネルディスカッション


ポスターセッション

２００９年「海水浴場復活シンポジウムー東京湾から発信するー」
タワーホール船堀・大ホールで東京湾の海水浴復活を目指して開催


コンクール表彰式


コンクール応募作品


シンポジウム風景

２０１８年「豊かで美しい東京湾を取り戻すシンポジウム」を開催



基調講演


パネルディスカッション


会場風景

東京湾をきれいにする10万人署名活動（2001年～）

２００１年、「次世代の子供たちのため東京湾を再生する」ことを目的に「ふるさと東京を考える実行委員会」を設立、初台のオペラシティに１５００人を集めて「ふるさと東京を考える環境フォーラム」を開催、同時に「東京湾をきれいにする１０万人署名活動」を開始しました。

２００６年には、２万人の署名が集まり、これを東京都知事政務担当特別秘書に提出致しました。
その後も、地道な署名活動を継続し、２０２６年８月、ついに１０万人の署名を達成しました。

１０万人の署名は、本フォーラムにおいて、東京都知事に提出致します。


署名用紙
「次世代の子供たちのために、東京湾をきれいにしよう」


2006年　東京都知事政務担当特別秘書に提出




海苔すき体験での署名活動



葛西の海の生き物ふれあい体験での署名活動

ムーブメントの創出

MOVEMENT

ムーブメントの創出

「ふるさと東京」再生

本当の豊かさとはなにか。
次世代の子どもたちに残し、伝えたいものー　　幻冬舎から出版　(2018年)

関口理事長が、子ども時代から地元葛西で建築設計事務所を開設するまで、そして多くの人に出会い、東京湾を子どもたちの泳げる海にしたいと、何かに突き動かされるように東京湾再生の活動を始め、実現に至るまでの道程を書いたものです。

自らの「ふるさと」である東京を再生させることを決断し、地元葛西で海水浴や浅草海苔養殖を復活させるなどの活動を紹介するとともに、ふるさと東京再生の意義を記載しています。

本の中では、「東京湾再生センター」設立の必要性も提案しています。



株式会社ベネッセコーポレーションの中学総合学力調査教材にも採用されました。

50年ぶりに海水浴場が復活
多くの人で賑わいました。



葛西海浜公園西なぎさでの海水浴
子どもたちの笑顔が溢れました。









東京湾再生を目指した海の絵画等コンクールの実施（2009年～）

自然と芸術は、ともに「心の豊かさ」を育むものであるとの考えに基づき、ふるさと東京を考える実行委員会は、関口美術館と共催で海の絵画等のコンクールを２００９年から４回実施しています。２０２６年夏には、第５回目のコンクールを実施しました。











海水浴の復活

SEA BATHING

海水浴



海水浴の復活（2012年～）

ふるさと東京を考える実行委員会の最初の目標は、東京湾再生の象徴となる「海水浴の復活」でした。

２００８年に「東京湾海水浴場復活プロジェクト」を新聞発表し、２００９年には、国土交通省、環境省、東京都港湾局、江戸川区の後援を得て、「海水浴場復活シンポジウム－東京湾から発信する－」を開催し、さらに「葛西海浜公園西なぎさ水質浄化実験」を開始しました。

その後、東京都との交渉を重ね、２０１２年にようやく２日間の海水浴を実施しました。そして翌年の２０１３年には１３日間、２０１４年からは２０日間、２０１７年には３５日間とし、海水浴場の範囲も西なぎさ全面に拡大しました。

さらに、２０１８年からは子供たちの夏休み期間をすべてカバーできるように４３日間の実施となり、海水浴客数は毎年６万人前後となっています。

そして、２０２６年で海水浴開始から１５年目になり、延べ６６万人もの人たちが訪れています。



海水浴復活に関する表彰（2014年・2015年）

首都圏で海水浴を復活させたことは、世界に誇れる事柄であり、地元江戸川区長、社会貢献支援財団、国土交通大臣など多くの表彰を受けました。













里海まつり夏



MISSION
東京に海水浴場を取り戻す

NHK・BSの番組「地球ドキュメント　ミッション」

べか舟（帆神丸）の復活（2009年～）

昔の葛西は海苔養殖が盛んで、べか舟はその時に使われた船です。
私たちは、「美しく輝いていた海に戻そう」という願いをこめて、当会のメンバーの関口理事長、関口政永相談役、松原和夫理事(当時)、恩田銀二郎理事(当時)が建造しました。

この様子は、２０１０年７月５日、NHK･BSの番組「地球ドキュメント　ミッション 」において「東京に海水浴場を取り戻す」（４４分）の内容として放映され、東京都内湾における海水浴復活の大きな後押しとなりました。

このべか舟は「龍神丸」と命名され、葛西海浜公園管理事務所一階に展示され、毎年、夏の里海まつりにおいて、子供たちを乗せています。



べか舟の文献を読む



べか舟建造安全祈願







べか舟乗船体験



すいか割り



紙芝居



里海まつり・夏（2010年～）

海水浴期間中の休日には、様々な海遊びを体験する「里海まつり・夏」を行っており、毎年１０００人～２０００人、これまで延べ２．５万人が参加しています。

参加者は主に親子連れ、小さな子供にとっては海の楽しさを知る絶好の機会になります。

「海での泳ぎ方教室」では、プールと違い、塩辛い、波もある海という環境での泳ぎ方を教えます。

「べか舟乗船体験」では、漁師が海苔の作業に使っていたべか舟を当会メンバーが復元したものに子供たちを乗せています。「すいか割り」は夏の海辺の風物詩、「投網体験」は、葛西の漁師が昔から使っていた漁具の体験です。「葛西の海に関する紙芝居」は、当会の行っている活動を紙芝居で説明しています。「はぜ釣り道具貸し出し」では小さなお子様に釣りの楽しみを体験してもらっています。「レスキューボード体験」では、ライフセーバーが使っているレスキューボードに乗る体験を行います。「バリアフリービーチ」は、障がい者が海水浴を楽しむイベントです。

「石笛」は、古代日本で作られた石製の楽器で、神道儀式や祭事で用いられています。当会では、海水浴最終日に演奏していただいています。



海での泳ぎ方教室



投網体験



石笛演奏



レスキューボード体験



はぜ釣り道具貸出



バリアフリービーチ

ビーチクリーン



BEACH CLEAN UP ビーチクリーン

西なぎさのビーチクリーン活動（2017年～）

子供たちが裸足で遊ぶことで、足の裏から砂浜の感触が直接伝わります。当会は、子供たちが裸足で遊べる海辺を作ることを目的に、２０１３年から開始し、２０１７年からは定期的なビーチクリーンとしました。

具体的には、４月から１１月まで毎月第４日曜日に開催しており、これまで約３５００名が参加しています。

このビーチクリーンの活動は、地元江戸川区にも評価され、２０２４年には江戸川区長から「第３回SDGs環境未来賞」を受賞しました。

２０２６年からは、拾ったカキ殻を細かく砕いて海に戻す活動も始めました。

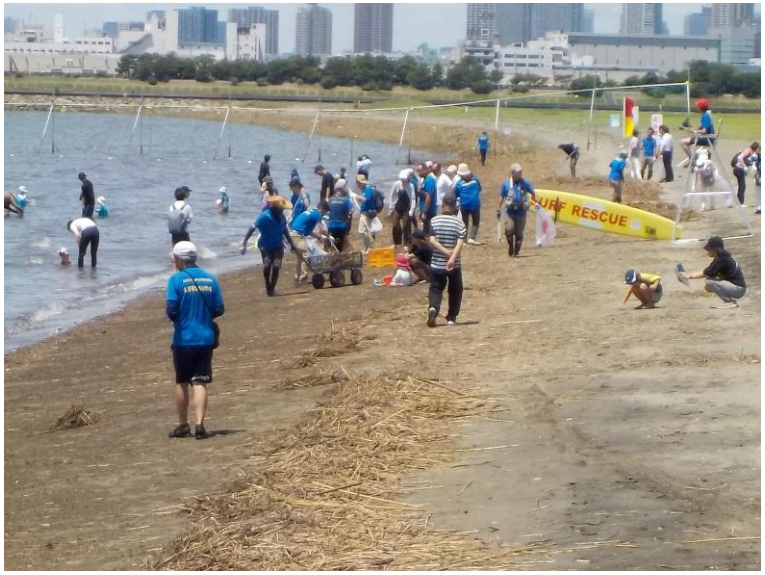


表彰盾





カキ殻の粉を撒いているところ





海苔わかめ養殖の復活（2010年～）

昔、葛西は海苔の養殖が主産業でしたが、高度経済成長期の工場排水等の影響で、海苔はとれなくなり、１９６２年には、東京都内湾の漁業権が全面放棄され、海苔養殖は行われなくなりました。

当会では、東京湾再生の重要な方策として海苔養殖復活を掲げ、２０１０年度、葛西海浜公園西なぎさで海苔養殖を復活させ、併せて「わかめ養殖」を開始しました。

養殖規模は、徐々に大きくなり、２０２５年には、８冊の海苔養殖を行って、約１．５トンの収穫を行いました。また、わかめも０．５トン程度を収穫しています。

海苔やわかめの養殖は、東京湾で問題となっている「富栄養化」の対策として、また、二酸化炭素を減らす「ブルーカーボン」への対策として位置づけられています。

そして、これらの海苔とわかめは、里海まつり・冬の海苔すき体験や試食に使用され、佃煮として地元の小学校で給食として使われるなど、子供たちに感動を与え、自分たちのふるさととしての「東京」の理解と愛着に貢献していると考えています。





海苔の養殖

種糸をロープにはさんだところ



わかめの養殖



里海まつり・冬（2010年～）

２０１０年度から継続して実施している「里海まつり・冬」では、葛西海浜公園で当会が養殖した「海苔」と「わかめ」を使ったイベントを２月の毎週日曜日に行っています。

この海苔やわかめに触れる「海苔すき体験」と「試食体験」のイベントは参加した人たちに葛西の文化を知ってもらい、「自分たちのふるさとは自分たちで守る」という意識を持っていただくことを目的に実施しています。毎回７００名程度の子供たちと保護者の参加がありこれまで延べ２．３万人が参加しています。





趣旨説明



海苔の紙芝居



海苔わかめタッチ



海苔たたき



海苔すき



海苔干し



焼き海苔



わかめしゃぶしゃぶ



海苔の味噌汁



ミニ海苔巻つくり

浅草海苔養殖復活

葛西海浜公園東なぎさで自生していた絶滅危惧種の浅草海苔の養殖に成功

昔の葛西では、「地っこ」と呼ばれる「浅草海苔」も養殖されていましたが、今では絶滅危惧種に指定されています。

当会では、葛西海浜公園東なぎさで自生する「浅草海苔」を発見、これを培養し、２０１８年から培養した糸状体から胞子を放出させ、これを海苔網に着生させて養殖することに成功しています。(DNA鑑定済み)



東なぎさ



東なぎさで浅草海苔を発見



浅草海苔糸状体の培養



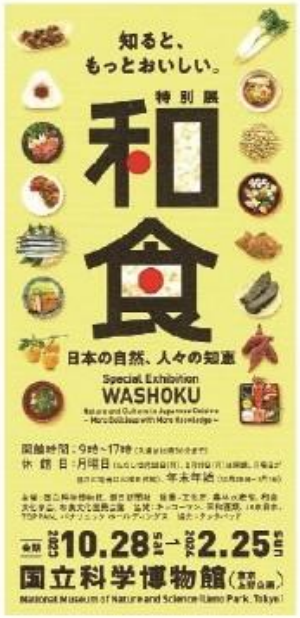
胞子の種付け



生育した浅草海苔

国立科学博物館「和食展」で当会の浅草海苔が展示（2023～24）

２０２３年１０月から２０２４年２月にかけて、国立科学博物館で開催された「和食展」において当会が葛西海浜公園東なぎさで発見し、養殖した「浅草海苔」が展示されました。





展示風景



国立科学博物館



当会が発見し、養殖した浅草海苔

西なぎさで養殖した海苔の佃煮千本を江戸川区の小学校に寄付（2024年～）

子供たちに東京湾再生への意識を高めてもらうため、地元葛西でも海苔を収穫していることを知ってもらいたいと思い、当会が葛西海浜公園で養殖した海苔から佃煮を作り、２０２４年から、毎年一回、江戸川区の小学校へ１０００本の佃煮の寄付を行い、給食で子供たちに食べてもらっています。



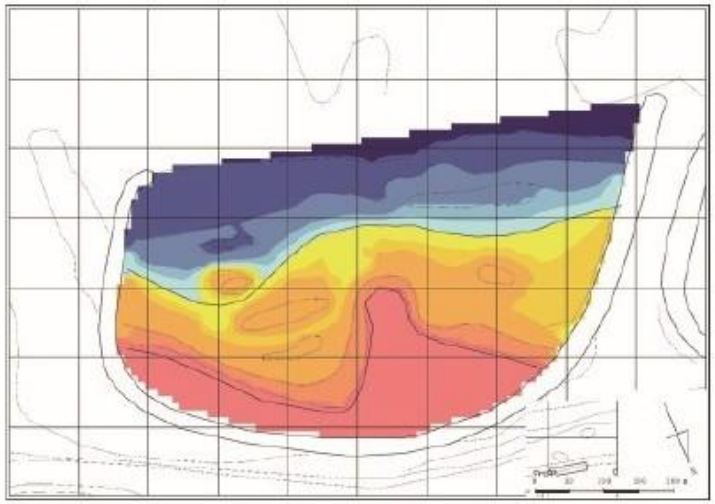




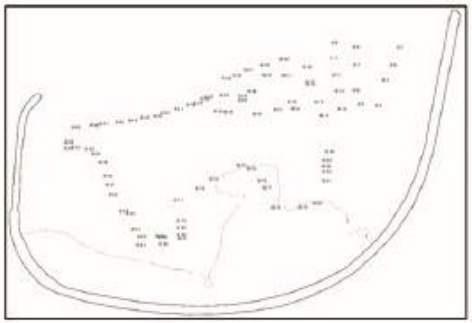
東なぎさ地形調査（2026年～）

当会では、葛西海浜公園東なぎさで絶滅危惧種の浅草海苔を発見し、これを西なぎさで培養・養殖していますが、本来の生息地である東なぎさで養殖することにより、絶滅に瀕した浅草海苔の保護繁殖に努めることを企画しています。

このため、東なぎさにおける浅草海苔の養殖適地を探すため２０２６年５月１０日に葛西海浜公園東なぎさの地形測量およびヘドロ厚さの簡易調査を行いました。







調査地点

水質浄化の取り組み

里海里山連携プロジェクト（2016年～）

カキは水を浄化する力を持ち、一個のカキが１日に４００リットルの海水を浄化すると言われています。また、カキだけでなくフジツボも水質浄化能力を持っています。

当会では、カキやフジツボを増やす手段として「竹ひび」を使っています。

竹ひびには、びっしりとカキやフジツボが付くからです。

また、古くなって抜いた竹は、焼いて竹炭にし、土壌改良材にします。

なお、竹ひびの竹は、里山で増えすぎて問題となっている竹を使っています。

里山をきれいにして里海もきれいにする。

これが、「里海里山連携プロジェクト」です。

当会では、２０１６年から「竹ひび一人一本活動」として竹ひび設置を続けており、多くの方々の寄付金並びに竹の寄付等により、現在、延べ４６００本を設置しています。



里山での竹の採取



竹ひびの設置



本はまぐり稚貝放流（2016年～）



本はまぐり稚貝を放流

葛西海浜公園の海は、かつて、あさりを主体とした漁場でしたが、埋め立ての実施により、河川が沖まで伸びて塩分が薄くなり、あさりより低い塩分濃度を好む本はまぐりに適した海となっていましたが、生息は僅かでした。

そこで、葛西海浜公園をはまぐりの浜とするため、本はまぐりの稚貝の放流を継続して行った結果、大きく成長した本はまぐりが来場者によって採られるようになってきています。また、本はまぐり稚貝が発見されることから、再生産も行われていることが推定されています。

２０１７年以降は、本はまぐり稚貝の入手が困難となり、産卵用として親貝を放流していますが、以前のように多くの本はまぐりのとれる浜でなくなっているほか、セミプロ的な大人がはまぐりを採取するため、子供達が大きな本はまぐりを潮干狩りで採ることは少なくなっています。

本はまぐり稚貝放流の経過

		砂粒稚貝	2cm稚貝(キロ)
2010	5月15日		30
	5月29日		60
	7月24日		60
	10月6日		60
2011	5月18日		30
	5月21日		60
	6月18日		60
	11月	2キロ程度	
2012	3月？	2キロ程度	
	5月20日		60
	6月10日		60
2013	5月10日		60
2014			30
2015	4月24日		30
2016	4月6日		30
計			630

大きく育った本はまぐり



水質浄化の取り組み

二枚貝生息量調査の開始（2020年～）





2017年

２０１７年頃までは、葛西海浜公園西なぎさには、「しおふき貝」等の多くの二枚貝が生息し、水質浄化に寄与していました。しかし、冬になり貝類を主な食べ物としているスズガモが多数飛来すると、激減することがありました。

このような中、スズガモが２万羽飛来することがラムサール登録要件に合致するという理由だけで、２０１８年に登録されてしまいました。スズガモ1羽が１日１kgの二枚貝を捕食するという千葉県の研究所の報告からすると、２万羽のスズガモは１日に２０トンの二枚貝を食べてしまいます。

スズガモの食害が二枚貝生息量に及ぼす影響を把握するため、当会は２０２０年から二枚貝の生息量調査を開始していますが、1㎡あたりの二枚貝の生息量は、ごく僅かで、しかも２０２４年と２０２５年のように夏場に二枚貝の生息が増えた年でも、スズガモの飛来する晩秋には、大きく減少することがわかってきました。

二枚貝生息量調査結果

	二枚貝生息量	西なぎさ面積	西なぎさ生息量
	kg/㎡	㎡	t
2020/8/17	0.003	230,000	0.69
2021/8/21	0.0413	230,000	9.50
2022/8025	0.0276	230,000	6.35
2023/9/17	0.02	230,000	4.60
2024/1/15	0.008	230,000	1.84
2024/3/11	0.03867	230,000	8.89
2024/8/21	0.0624	230,000	14.35
2024/11/14	0.032	230,000	7.36
2024/3/30	0.04647	230,000	10.69
2025/8/22	0.1028	230,000	23.64
2025/11/3	0.0542	230,000	12.47
2026/3/20	0.0149	230,000	3.43



2009年



被覆網等による増殖実験を開始、被覆網内の二枚貝重量が数十倍になることを確認（2021年～）

砂浜を目合いの細かな網で覆う「被覆網」の実験を２０２１年から実施し、海水浴の終わった時期に「被覆網」を設置し、翌年３月に効果調査を行っています。

その結果、周囲の二枚貝の数十倍もの二枚貝、特にシオフキ貝が生息していることが確認されました。このことから、葛西海浜公園の二枚貝の潜在的な繁殖可能性は極めて高いもののカモやエイ等による食害が阻害要因となっており、食害対策が二枚貝復活の最も大切な課題であり、食害対策により水質浄化が促進され、きれいで豊かな海づくりにつながることが理解されました。



被覆網



被覆網内の貝類調査



大量のシオフキ貝

水質浄化の取り組み

カキ天然採苗および養殖実験開始（2023年～）

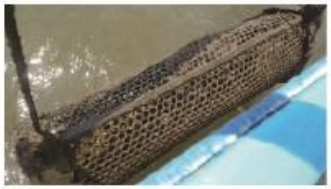
２０２３年から、カキの天然採苗実験を開始しています。
様々な採苗器で実験した結果、簡単にカキを剥がすことができる「一粒ガキの種苗」を大量に生産できるようになっています。
生産されたカキ種苗をカゴに入れて、養殖を行っており、実入りのいいカキが育っています。



天然採苗された種ガキ



成長したカキ



養殖カゴ

NPO漁師

定置網・釣りによる定期的魚類調査開始（2023年～）

環境資本主義の基本は、一次産業の復活です。
当会では、東京都内湾での漁業復活を目指しており、「ＮＰＯ漁師宣言」を２０２０年に行い、２０２３年からは定置網や釣りにより、どのような魚種が、いつ、どのくらいとれるのか、定期的な基礎調査を行っています。



定置網



大きなスズキ



ハゼ



幻の魚シラウオ



釣り調査

西なぎさの「里海センター」建設へ

東京都は、葛西海浜公園にビジターセンターを建設するにあたり、デザイン公募を行った結果、関口雄三理事長案が採用され、２０２５年１２月、採用されたデザインに基づく基本計画が公表されました。

建設は、２０２７年から始まり２０２８年春には完成予定となっています。

当会では、このビジターセンターの名称を「里海センター」とするよう東京都に要請しています。

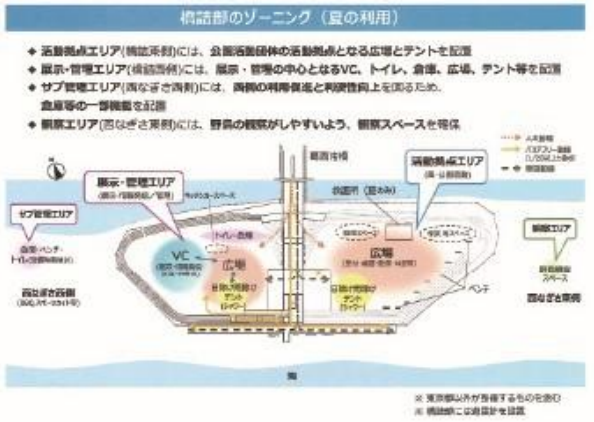

建通新聞　2022/8/12

葛西海浜公園ビジターセンター

デザイン4案を採用

基礎となるデザイン案





東京湾再生に向けて、地域と共生するラムサール条約の提案

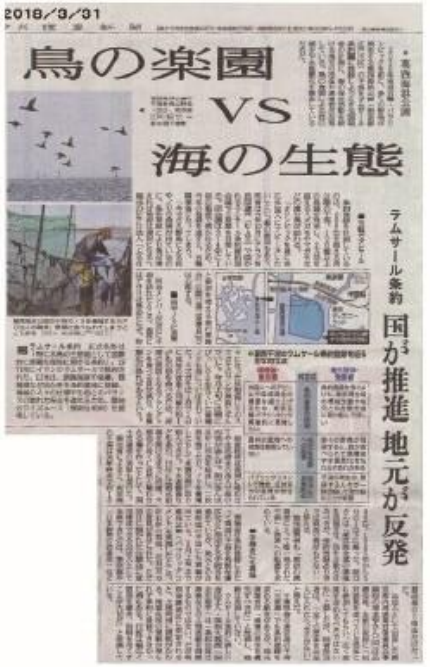
東京湾をきれいで豊かな海に再生する。それが当会の目標であり、二枚貝を使った水質浄化実験に取りくんでいます。そこで感じるのが、カキ以外の二枚貝は、その生息量が極めて少ないことです。

アサリやハマグリ、シオフキ貝といった砂底に住む二枚貝の量は、当会が調査した結果、西なぎさ全体でわずか数トン程度であり、２万羽も飛来するスズガモが１日に２０トンの二枚貝を食べてしまうことと比べて、あまりにも少ない生息量と言えます。

ところが、既に被覆網の実験のところで述べたように、スズガモ等の食害を防ぐ被覆網を設置すると、その下には周囲の数十倍の二枚貝が生息します。つまり、東京湾自体の二枚貝の生産ポテンシャルは、非常に高く、これを活用すれば、東京湾は豊かできれいな海になり得るのです。

したがって、スズガモ等の食害対策として、葛西海浜公園に飛来するスズガモを二枚貝生息量に見合ったものにする必要があります。２万羽の飛来数を登録要件とするラムサール登録を、これからはその地域と共生するラムサール条約の登録とすることが望まれます。その地域ごとに特色があり、その地域と共生するラムサール条約としなければなりません。


スズガモによるアサリ食害の様子


2018/3/31

鳥の楽園 VS 海の生態

ラムサール条約 国が推進 地元が反発


鳥の糞害も海水浴に悪影響・鳥インフルエンザの心配

東京湾再生センター構想

「東京湾再生センター」の設立を目指しての活動経過

私たちは、自らの「海」や「ふるさと」は、自らで守るという考えのもとに、葛西の海で海水浴を復活させました。

次世代の子供たちのために「ふるさと」を一緒に守り、育てていくこと、そのためには、「ふるさと東京」の再生を着実に進めるため、都民、企業、研究者等による強い協力・支援体制を得て、様々な分野から総合的に考える 「東京湾再生センター」の設立が必要であると私たちは考えます。

センターでは、本来、東京湾の持っていた自然環境、第一次産業、文化、景観等の諸機能の再生を具体的かつ実証的に進めるとともに、根本的な課題として首都圏からの環境負荷を軽減し、人口・産業の集中・集積を見直すことにより、持続可能な社会を創造するため都市構造の研究・検討を行うことが必要不可欠です。

当会では、建て替えのため使われなくなる「葛西臨海水族園」の施設を「東京湾再生センター」として活用することを東京都に強く申し入れ、東京都のヒアリングも受けました。

その結果、２０２１年９月に東京都建設局が発表したのが「葛西臨海水族園既存施設利活用の考え方」で、次のように記述されています。



第五章　利活用の基本的考え方について

前章までの内容に加え、「『未来の東京』戦略」など都の方針を踏まえ、葛西臨海水族園既存施設の利活用のコンセプト及び今後の検討の視点と方向性をまとめました。引き続きこれらを踏まえ、検討を進めていきます。

Ⅰ．コンセプト

『葛西臨海公園内に立地し、葛西海浜公園にも接するという特性を生かして、自然に親しみながら環境教育を行う場とするなど、新たな水族園とも有機的に連携しながら既存施設を利活用することにより、周辺一帯の魅力を向上させる。』

私たちは、「東京湾再生センター」が、①葛西の海と一体化したものであること。②自分たちが行っている葛西の活動を、見せるのではなく、水槽を使いながら体験させるものであること。つまり五感で感じさせるものであるべきで、研究機関としてだけではなく、リアルを見せるものであるべきと考えており、東京都建設局の水族園の跡地利用に関する考え方と合致するものとなっています。



葛西の海の生き物たちを展示した里海水族園開設（2024年～）

東京湾再生のためには、「東京湾再生センター」の設立が必要と当会は考えています。センターは、葛西の海と一体となることが大切で、東京湾再生を目指し、当会が行っている葛西の活動の成果を、見せるのではなく、リアルで体験してもらうため、水槽を使い体験させること、五感で感じるものにしたいと考えています。

このような観点から、葛西海浜公園管理事務所一階において、葛西の海の生物を展示した水槽を設置し、「里海水族園」として公開しています。

水槽内には、スズキ、ボラ、マハゼ、マコガレイ、トラフグ、ギマ、コトヒキなどが飼育されています。

また、「葛西の海の生き物ふれあいイベント」も新たに開始し、人気を博しています。


エビすくい


マコガレイ


里海水族園


マゴチ


スズキ


カニ釣り


アカエイタッチ

次世代の子供たちのために東京湾を再生
「ふるさと東京を考える実行委員会」の活動経過

1977年　関口雄三（現理事長）が次世代の子供たちのため「東京湾再生」を決断
（東京湾再生に協力する地元政治家を支援）
1989年　葛西海浜公園「西なぎさ」「東なぎさ」が造られる
2001年　「ふるさと東京を考える実行委員会」を設立
「ふるさと東京を考える環境フォーラム」を開催
「東京湾をきれいにする10万人署名」活動開始
（2026年8月末10万人達成、10月、東京都に提出予定）
2003年　「東京湾NPO・市民ネットワークフォーラム」を開催
（56団体参加、関口雄三が発起難代表）
2006年　「東京湾をきれいにする署名」2万人分を東京都知事特別秘書に提出
2007年　「マリンガーデニングによる新左近川部分浄化実験」に成功
東なぎさに自生する浅草海苔発見（ DNA鑑定済）
2008年　「東京湾海水浴場復活プロジェクト」を発表
（地元葛西の海に海水浴を取り戻す決意を示す）
2009年　「海水浴場復活シンポジウム」を開催
（葛西の海に海水浴を取り戻すムーブメントを創出するため）
「第1回こども海の絵画等コンクール」実施
（こどもたちに海に対する関心を高めてもらうことが目的）
「葛西海浜公園西なぎさ水質浄化実験」を開始
2010年　「里海まつり（夏・冬）」開始
葛西海浜公園（西なぎさ）で、海苔・わかめの養殖開始
（海苔文化の復活と水質浄化対策＆地球温暖化対策）
本はまぐり稚貝放流開始（二枚貝による水質浄化）
2011年　葛西海浜公園西なぎさに水質浄化施設（竹ひび）を設置
（竹に付着するカキによる水質浄化）
「第2回葛西海浜公園絵画等コンクール」実施
2012年　「里海まつり夏」において「海水浴」を2日間実施
（約50年ぶりの海水浴復活）
東京都が、葛西海浜公園における「遊泳禁止」の看板を
「許可なき遊泳は禁止する」に変更
2013年　夏休み期間中に、「海水浴」を13日間（土・日）実施
2014年　夏休み期間中に20日間の「“海水浴”社会実験」開始（～2015年）
「第3回葛西海浜公園西なぎさ絵画等コンクール」実施
2016年　東京都と事業連携をし、33日間の「海水浴」を実施

2016年　里海里山連携プロジェクト（竹ひび1人1本活動）開始
（里山で邪魔者扱いされている竹を使って水質浄化）
2017年　葛西海浜公園西なぎさ「ビーチクリーン」開始
（子供たちが裸足で遊べる海辺づくりを目指して）
「第4回葛西海浜公園西なぎさ絵画等コンクール」実施
2018年　「海水浴」の期間を夏休み全期間（43日間）に拡大
「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案」を
東京湾再生推進会議に提出
2018年　葛西海浜公園東なぎさで自生する浅草海苔を培養し、養殖を開始
（DNA鑑定済み）
「豊かで美しい東京湾を取り戻すシンポジウム」を開催
（50年後を目指して東京湾から発信する）
「ふるさと東京再生」を幻冬舎から出版
（東京湾再生センター設立の必要性を提案）
2020年　NPO漁師宣言（一次産業の復活が東京湾再生のカギとなる）
二枚貝生息量調査開始（カモによる二枚貝の食害実態把握）
2022年　被覆網による二枚貝増殖実験開始
（二枚貝による水質浄化を目指して）
2023年　カキ天然採苗および養殖実験開始
（二枚貝による水質浄化を目指して）
定期的な魚類調査開始（NPO漁師実現のための基礎調査）
国立科学博物館「和食展」で当会が養殖した浅草海苔を展示
2024年　海苔の佃煮1,000本を江戸川区の小学校に寄付することを開始
（今年で3年目　子供たちに地元の海を好きになってもらうため）
葛西海浜公園事務所1階で葛西の海の生き物展示を開始
（里海水族園・・・葛西の海の生物多様性を体験するため）

2026年10月24日　葛西区民館大ホール

次世代の子供たちのために
東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラム
－ふるさと東京を考える実行委員会25周年記念－

芝田竜文理事

東京都内湾での海水浴の復活









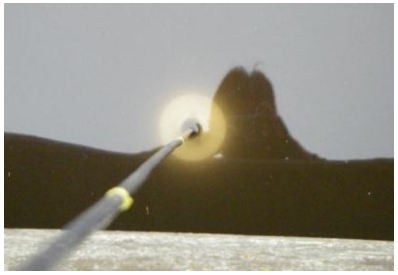


カキは水を浄化する

カキによる新左近川部分浄化実験







対照区



実験区



東京湾海水浴場復活プロジェクト発表

2008年

葛西海浜公園西なぎさに
海水浴場を復活させるための水質浄化構想図





東京新聞　2008年(平成20年)8月9日(土曜日)　したまち 地域の情報 22

東区雷門2-4-9　明祐ビル5階
470　Eメール:sitamati@tokyo-np.co.jp
購読のお申し込み 0120-026-999
配達・集金お問い合わせ 03-6910-2556
広告のご用命 03-6910-2489
川支局 ☎042-524-0061 FAX:042-524-0063 ～ル:tama@tokyo-np.co.jp
通信局・部 武蔵野 0422-43-2134 八王子 042-656-2313 町　田 042-728-6655

諸願祈願
鹿野山神野寺
☎0439(37)2351

したまち

2年後の実現目指し水質浄化

東京湾を泳げる海に

江戸川のNPOが活動開始

江戸川区の特定非営利活動法人（NPO法人）「ふるさと東京を考える実行委員会」が、葛西臨海公園（葛西海浜公園）沖に海水浴場を復活させる活動を始めた。カキなどを使って浄化する「東京湾海水浴場復活プロジェクト」が八日発足し、二年後の実現を目指す。その後、東京内湾の他の場所でも復活させたいとしている。（小林由比）

葛西臨海公園沖に海水浴場

葛西海浜公園の「西なぎさ」。後方右は「東なぎさ」、後方左は葛西臨海公園＝江戸川区で（本社ヘリ「あさづる」から）

同会によると、東京湾奥で現在泳げる浜は、千葉県の稲毛海浜公園だけ。葛西海浜公園の人工なぎさ「西なぎさ」も、水遊びなどはできるが、水質基準を満たさないと口並三さん(78)の呼び掛けで七年前に結成された。葛西で生まれ育ち、少年時代は父親のノリ漁を手伝っていた関口さんは「自分の古里は自分で守るという思いで、地域の人たちが手を携えて、泳げる海を再生させたい」と多くの人の協力を呼び掛けている。

問い合わせは、同会事務局＝〒03（3869）1992＝か、メールアドレスvuzo@sekiguchi-sekkei.co.jp

「都市で起きているさまざまな問題はするべき自然を守らなかったことが原因では」と話す関口さん＝江戸川区で

満たしていた。透明度は波打ち際で基準を満たさなかったが、プロジェクトでは、西なぎさの前面にカキの柵を設置して半閉鎖し、透明度を高める。葛西海浜公園の人工なぎさ「西なぎさ」も、水遊びなどはできるが、建築設計事務所を開く関口雄三さん(78)の呼び掛けで七年前に結成された。葛西で生まれ育ち、少年時代は父親のノリ漁を手伝っていた関口さんは「自分の古里は自分で守るという思いで、地域の人たちが手を携えて、泳げる海を再生させたい」と多くの人の協力を呼び掛けている。

問い合わせは、同会事務局＝〒03（3869）1992＝か、メールアドレスvuzo@sekiguchi-sekkei.co.jp

先月、同会が西なぎさで実施した調査では、ふん便性大腸菌や水質指標（COD）などは、海水浴場の化学的酸素要求量として認められる基準を

葛西海浜公園西なぎさを海水浴場へ

2009年

海水浴場復活シンポジウム開催





2009年

葛西海浜公園西なぎさ水質浄化実験開始
（東京都港湾局と協働）





東京湾　50年ぶりの海水浴場復活

2012年





2012年(平成24年)8月6日　月曜日

朝日新聞

東京

海水浴場復活へ
1日限定海遊び
葛西海浜公園

都内の東京湾で海水浴を復活させようと、認定NPO法人「ふるさと東京を考える実行委員会」が江戸川区の葛西海浜公園で5日、1日限定の海水浴場を開いた。関係機関と協議し、水質検査をしてこの日だけ遊泳できる場所を設けた。約3千人が海遊びを楽しんだ。



特別に設けられた遊泳ゾーンで海水浴を楽しむ親子＝5日、江戸川区臨海町6丁目

現在、23区内の東京湾には海水浴場がない。同委員会理事長で、江戸川区中葛西出身の関口雄三さん(64)は子どものころ、夏は近くの海で泳いで育った。「東京のふるさとの海で泳ぎ、生きものに触れ合ってもらいたい」と、海水浴場復活のための取り組みをしている。

署名活動や講演会のほか、ここ3年間は都港湾局と一緒に水質浄化のための取り組みをした。トゲが危険なエイの侵入防止ネットの設置を進め、地元の葛西中の生徒17人とゴミや石を拾い、環境を整備した。

「東京湾での海水浴の第一歩になれば」と広さ約1万5千平方㍍の遊泳ゾーンを準備した。

この日は、すいか割りや地びき網体験などもあった。家族5人で千葉県市川市から来た藤谷富美江さん(34)は「遠くまで行くのは大変なので東京で海水浴ができればうれしい」と話した。同様のイベントは9月2日にも予定されている。問い合わせは同委員会（03・3869・1992）へ。

葛西海浜公園 西なぎさ

海水浴復活
15年目の歩みと今

約50年ぶりに復活した海水浴
これまでの活動と、これからの取り組み



ふるさと東京を考える実行委員会ライフセービングクラブ

芝　田　竜　文

東京湾　50年ぶりの海水浴場復活

2012年8月5日・9月2日の2日間
（100m×150mの遊泳エリアを設置）









2012年8月6日　月曜日

東京

海水浴場復活へ
1日限定海遊び
葛西海浜公園

都内の東京湾で海水浴を復活させようと、都近NPO法人「ふるさと東京を考える実行委員会」が江戸川区の葛西海浜公園で5日、1日限定の海水浴場を開いた。関係機関と協議し、水質検査をしてこの日だけ遊泳

特別に設けられた遊泳ゾーンで海水浴を楽しむ親子＝5日、江戸川区臨海町6で

「できる場所を設けた」約3千人が海遊びを楽しんだ。

現在、23区内の東京湾には海水浴場がない。同委員会理事長で、江戸川区中葛西出身の関口昭三さん（64）は子どものころ、夏は泳ぐ海で泳いで育った。「東京のふるさとの海で泳ぎ、生きものに触れ合ってもらいたい」と海水浴場復活のための取り組みをしている。

署名活動や講演会のほか、ここ3年間は都環境局と一緒に水質浄化のための取り組みをした。トゲが危険なエイの侵入防止ネットの設置を進め、地元の葛西中の生徒17人とゴミや石を拾い、調査を実施した。

「東京湾での海水浴の第一歩になれば」と広さ約1万5千平方㍍の遊泳ゾーンを準備した。

この日は、すいか割りや地びき網体験などもあった。家族5人で千葉県市川市から来た勝谷富美江さん（38）は「遠くまで行くのは大変なので東京で海水浴ができればうれしい」と話した。同様のイベントは9月2日にも予定されている。問い合わせは同委員会（03・3869・1992）へ。

海浜・海底清掃



海浜清掃



海底清掃



貝殻除去



打ち上げゴミの撤去

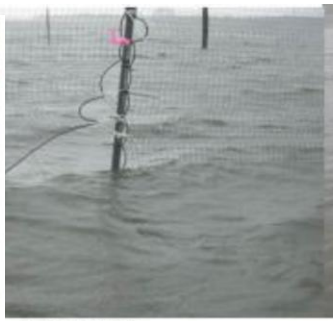
アカエイ侵入防止ネットの設置とアカエイの駆除



ネット内外のアカエイ捕食穴数の差



遊泳ゾーン内のアカエイ穴発見(7／27)



業者設置状況点検



アカエイ駆除(20匹)



アカエイ駆除作業



駆除されたアカエイ(7／26)



破網等の補修



ネットに絡まった枝等の除去

遊泳ゾーンの設置作業



単管パイプを立てる作業



できあがった遊泳ゾーン



遊泳ゾーン看板

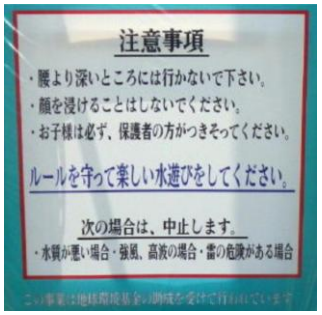


ビーチボール流出防止網設置



遊泳ゾーン撤去

海水浴のルール（2012年）





①**腰までの深さ**
②**顔をつけない**
③**監視員の配置**
（約10名のガードがエリアを囲んで監視）

【次の場合は中止】
水質が悪い場合・強風・高波・雷の危険がある場合







2日間限定の試行から、海に親しむ場が続く

2012–2026 復活15年目までの主な節目

2012

2日間限定の試行

海遊びを実施し、
復活の第一歩に。

・腰の深さまで
・顔付けは禁止

2013

海開きと拡大

13日間
（夏休みの土日）
海遊びを実施。

遊泳禁止から
許可なき遊泳禁止

2015

東京都と連携

社会実験として
20日間実施。

顔付け遊泳が
OK！

2016

東京都が
長期ビジョン表明
葛西海浜公園で
海水浴を実施する
と表明。

夏休み期間中
平日も海水浴を実施
なぎさ全面エリア拡大

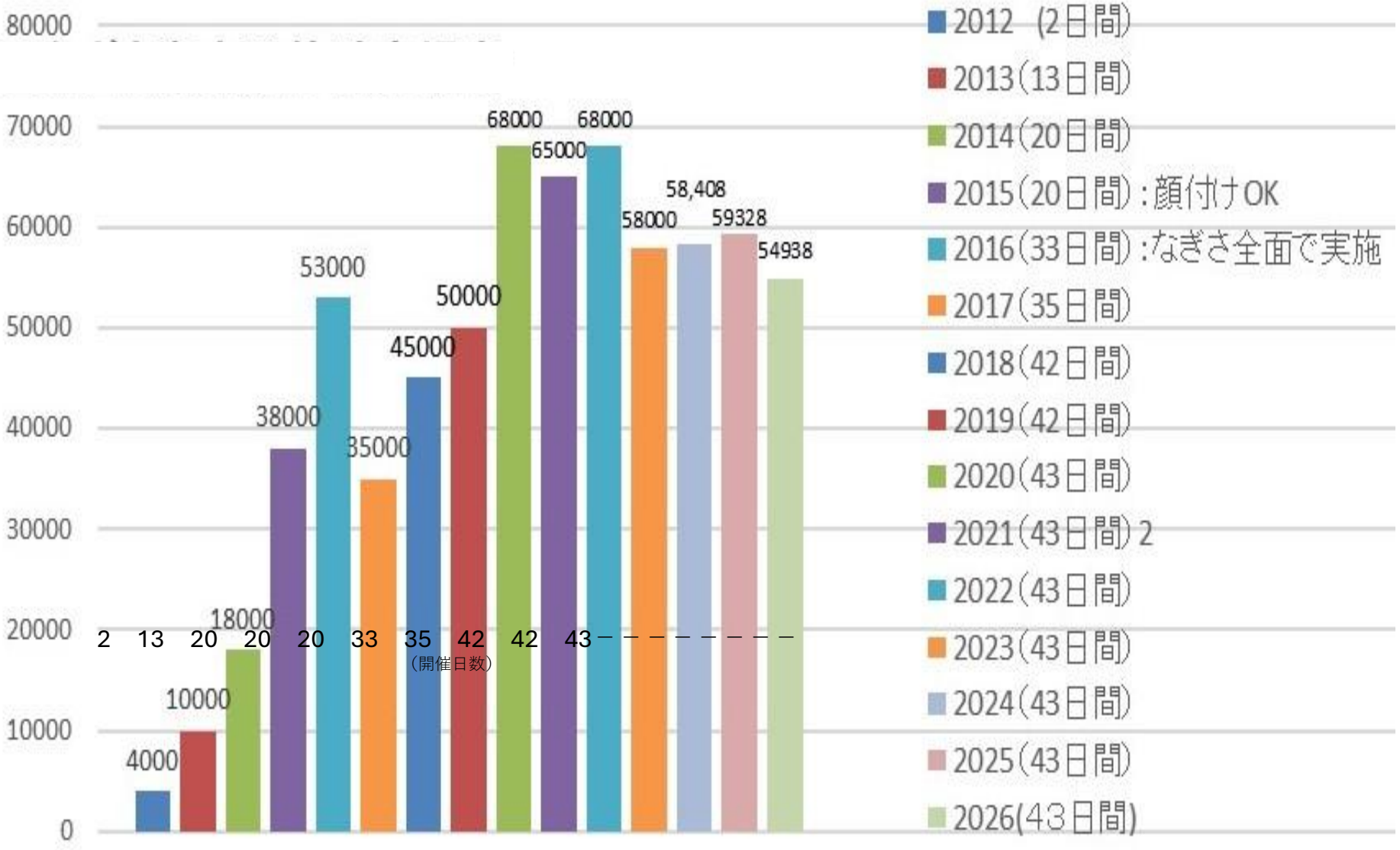
2026

活動を継続

夏の海水浴体験、
安全の追求
美しい海を取り戻す

新たな連携と挑戦へ

年度別海水浴体験来場者数



水質への取り組みと安全管理が復活を支える


カキのイメージ

2009年から水質浄化実験

東京都港湾局と協働し、カキなどの
水質浄化生物を活用する実験に着手。

遊泳できる範囲を定める

区域ロープやアカエイ侵入防止ネットで、
遊泳ゾーンを区切る。

人が見守る体制をつくる

監視員（ライフセーバー）と看護師を配置。
事故防止に努めるとともに、万が一に備え
救助法・救急法の訓練を行うとともに、
救護スペースも設ける。



海のコンディション（海水・漂着物）はその日次第！

北風で波がなく穏やかで、漂着物も少ない状態





南風で波が立ち木くずやゴミが流れ着いた状態







西なぎさの干潮（遊泳ゾーンのほとんどが干潟になる）

海水浴は出来ない状態ですが、潮干狩りや干潟遊びで賑わいます！



西なぎさの満潮時の推移（大潮の時は200㎝を越える）

海水浴に適した遠浅の海！　遊泳ゾーン沖合は背が届かなくなる日も！





悪天候（強風・高波・雷等）や水質悪化の日は遊泳禁止



葛西の海の危険生物









海水浴体験のスタッフ配置

担当	主な配置場所	役割
連絡調整責任者	受付本部・連絡拠点	海況を把握し、実施・中止の判断を統括 緊急時の指揮と関係機関への連絡（1名/日）
監視担当 ライフセーバー	監視台・遊泳区域の周囲	担当区域を継続して監視 危険行動への声かけと異常の早期発見・対応（7名/日）
看護師・救護担当	救護所	けが・体調不良への対応 必要時の救急要請と引き継ぎ（1名/日）
海底確認・清掃 遊泳ゾーン管理	浜辺・利用者の動線	干潟の清掃（危険生物除去・貝や石・ゴミの撤去作業） 遊泳ゾーンのロープやブイ等の管理（2名/日）

楽しむ場所は、生きものの大切なすみか

自然との共生

都内初の
ラムサール条約湿地に登録

干潟や海域の自然を守りながら、
海とふれあう。

来園前に知っておきたいこと

海水浴は開催期間・指定区域だけ

2027年の夏の海水浴体験の期間は公式案内で確認。
干潮・満潮の時間を確認して、海水浴・干潟あそびを楽しむ。

子どもは保護者と一緒に

概ね12歳以下は保護者同伴。マリンシューズを推奨。

暑さと海の生きものに注意

こまめな水分・塩分補給。保護ネット内でも注意が必要。

保護区域や観察のルールを守る

東なぎさは原則立入禁止。観察した生きものは戻す。

海水浴体験期間中に仮設される施設

ライフセーバー等スタッフ待機場所・救護所



有料の更衣室・シャワーブース・コインロッカー



更衣室シャワー
200円/回

コインロッカー
200円/回

里海まつり受付テント



ふるさと東京を考える実行委員会
の活動紹介のほか、

里海まつり（夏）の
楽しいイベントの受付場所

毎年海の日の初日　オープニングセレモニーと海水浴の安全祈願祭を開催







海水浴体験の遊泳ゾーン（2020年～2026年）



パトロール及び救助機材

・レスキューボード　4台
・レスキューチューブ　6本
・シーカヤック　1台
・IRB（ゴムボート）　1台
・監視台（タワー）　2台
・シーバー　8台（管理事務所・案内所含む）







2020年7月　海での事故ゼロを目指して！

ふるさと東京を考える実行委員会ライフセービングクラブを結成





ライフセーバーの役割は「救助が必要な状況をつくらないこと」

水辺の事故防止こそが、ライフセーバーの役割です。
そのためにビーチの監視台に立ち、浜辺をパトロールし、次代を担う子どもたちに水辺教育（Ｊｒライフセービング教室）を行ったり、
ライフセービング活動を通して環境問題を海水浴客と共に向きあったりしています。





海水浴体験　スタッフの1日

08時30分　葛西海浜公園事務所に集合
海に必要な機材・飲料タンク・クーラーボックス等を準備・運搬

09時00分　西なぎさに移動
各所ビーチパトロール機材配置
海洋の状態チェック（その日の水質状況/予測を確認）

09時30分　朝礼（ガード・看護師・海底清掃・エイネット業者・指定管理者が参加）
スタッフ紹介/天候/海の様子/本日の催し物/各担当の予定　等を開始前に共有
※朝礼終了後、ガードはW-up・レスキュートレーニング

10時00分　海水浴体験開始（ガードの笛の合図で開始）
事故防止のための監視・お客様への声掛け・海底清掃・迷子の保護・防犯　等

16時00分　海水浴体験終了（機材の片付け）

16時10分　終礼（各所の1日の報告と情報共有）

16時30分　葛西海浜公園事務所に機材運搬・片付け



レスキュートレーニング※チューブ・レスキューボードでのレスキューとBLSの訓練











救護所の設置　(看護師が常駐し、ライフセーバーと連携)



アカエイに刺されたところをお湯に入れ、
痛みをやわらげているところ

海で学び、浜を守る活動は一年を通して続く

海の文化にふれる

里海まつりでは漁業体験や和船乗船。
地域の海との暮らしを体験する。
（海苔・ワカメの養殖・海苔すき体験ほか）





生きものと環境を知る

観察会や海岸クリーンアップに参加。
身近な自然の変化に目を向ける。



ジュニアライフセービング教室
水辺の安全教室と次世代のライフセーバーの育成









今後の取り組み：体験を学びと継続的な活動へ

既存の活動を土台に、学校や来園者が関われる取り組みを広げる

取り組みの柱	次に試したいこと	残して伝える記録
学校との連携	事前学習と現地観察をつなぐ 授業のひな型をつくる ライフセーバーの育成・教育	児童・生徒の気づき 学習後の振り返り 地元の海を知り、自然を慈しむ心
環境の見える化	竹ひび設置・清掃や生きもの観察を継続して記録し、 様々な環境改善イベントの開催	ごみの種類・量 観察した生きもの みんなでつくる海の自然環境
活動を支える人づくり	初参加者向けの説明を整え 小さな役割から参加を募る 協力者・会員数を増やす	参加人数と活動時間 続けやすさの意見 自然の大切さ・美しさの共有

ふるさと東京・葛西の海

未来を担うわが子たちを育む、ふるさとの海！
みんなが楽しく集い、安心して遊べる場所に！

次世代の子供たちのために豊かな海を取り戻そう！



NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会

ご清聴ありがとうございました



石原友延理事

海苔養殖



海苔の佃煮千本を江戸川区小学校に寄付





7月16日（火）

新田小

活動報告

公開日 2024/07/18　更新日 2024/07/16　給食

【本日の献立】
ごはん、のりの佃煮、牛乳、五目たまご焼き、豚肉ともやしの野菜炒め、かぼちゃのみそ汁

浅草海苔養殖











里海まつり 冬　のりタッチ



里海まつり 冬　海苔たたき



里海まつり 冬　海苔すき体験



里海まつり 冬　海苔干し



里海まつり 冬　海苔干し



里海まつり 冬　焼き海苔試食





里海まつり 冬　海苔の味噌汁





山本章理事


東京湾を未来へつなぐ
ビーチクリーン活動
次世代の子どもたちに、豊かな東京湾を
25周年記念フォーラム

1. 活動の目的

葛西海浜公園西なぎさを子どもたちが裸足で遊べる浜辺づくりを
行い、海をきれいにするだけでなく東京湾を身近に感じてもらう。

- 東京湾をきれいにし、次の世代に豊かな海を残す
- 海岸のごみを拾いながら、海の環境について考える
- 「東京湾を知る・好きになる・大切にする」人を増やす



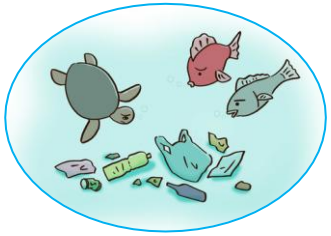


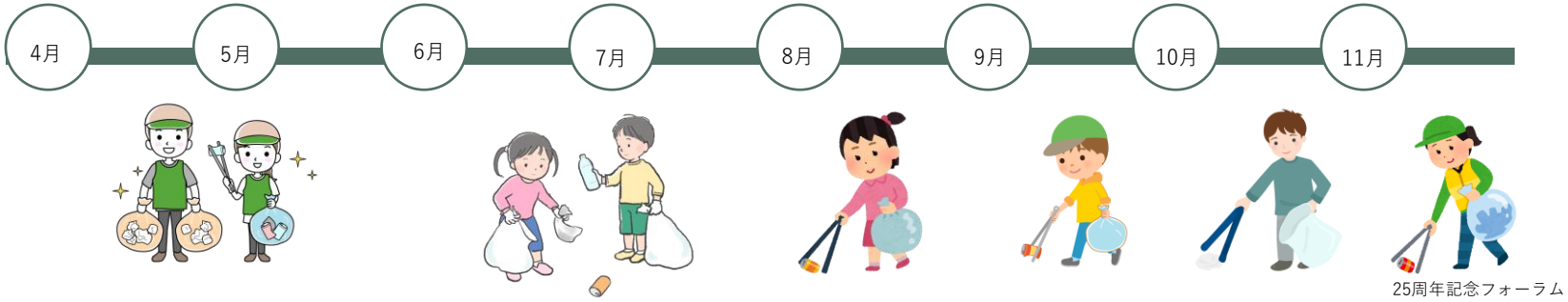
2. 年間の活動



4月～11月　毎月第4日曜日

- 毎月テーマを決めてビーチクリーンを実施
- 参加者みんなで楽しみながら活動
- 子どもから大人まで、誰でも参加できる活動を目指す





3.　「楽しく続ける」ための工夫

一度の参加で終わらず、「また来月も」と思ってもらう

- 参加者にスタンプカードを配布
- 継続参加を毎月表彰し、楽しみながら参加できる仕組みをつくる
- 活動そのものを「地域の楽しみ」にしていく



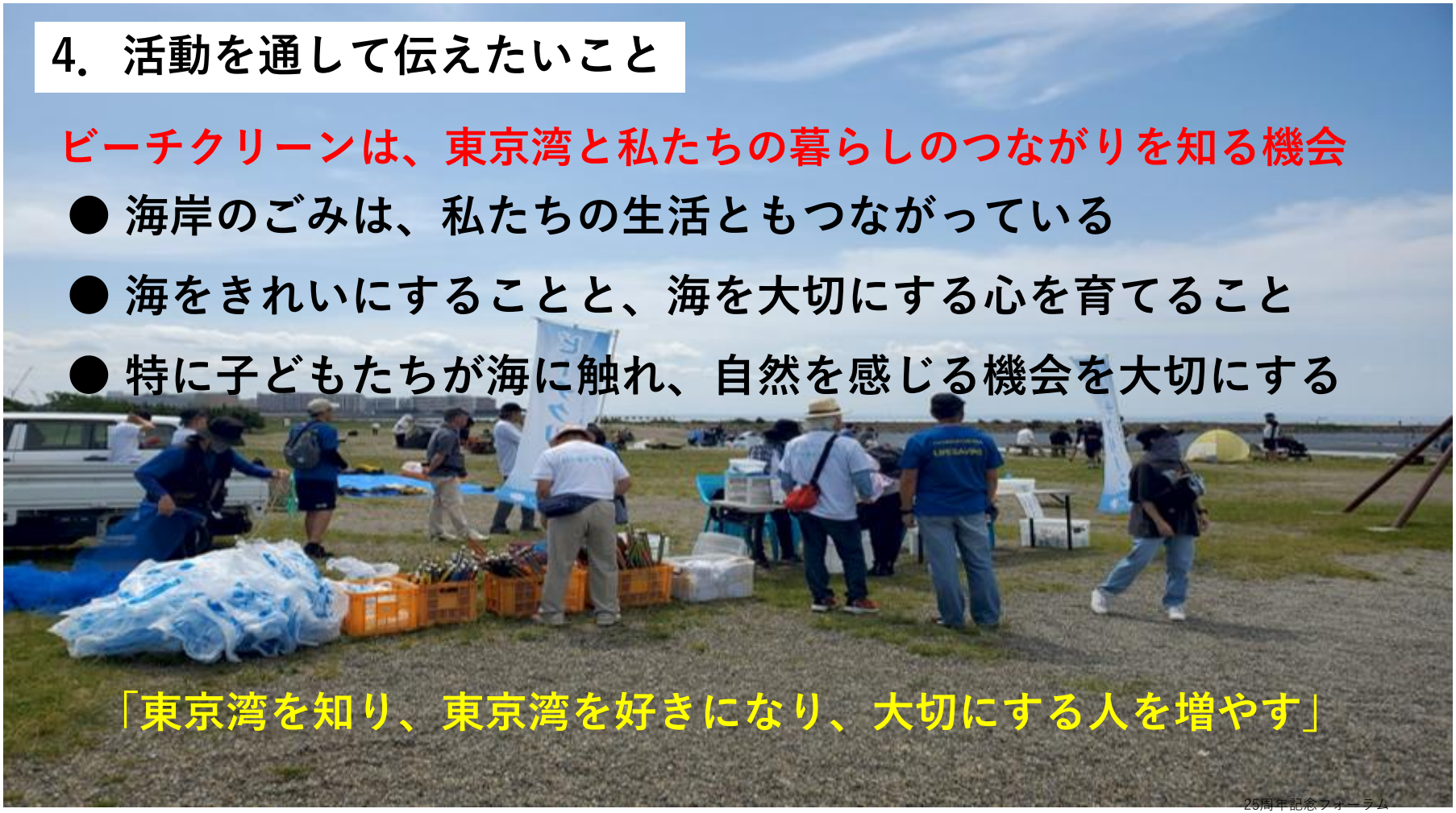
「また来月も参加しよう！」



4. 活動を通して伝えたいこと

ビーチクリーンは、東京湾と私たちの暮らしのつながりを知る機会

- 海岸のごみは、私たちの生活ともつながっている
- 海をきれいにすることと、海を大切にする心を育てること
- 特に子どもたちが海に触れ、自然を感じる機会を大切にする



「東京湾を知り、東京湾を好きになり、大切にする人を増やす」

5. 次の世代へ

25周年から、これからの25年へ



神田康嗣理事

べか舟乗船体験



魚類調査

- 2023年～　定置網と釣りによる定期的な魚類調査の実施
- 2025年～　東京湾では幻の魚となった「シラウオ」がとれる











東なぎさ現況調査研究

- 2026年5月10日　東なぎさでの浅草海苔の養殖適地を探すため、
  地形とヘドロの調査を実施

